

■景観とは何か

似たような言葉に、風景・景色などがあり、厳密には区別できないが客観性を重視する場合に「景観」を使うのが自然なようです。ただし、景観まちあるき活動においては、「景観は地域の記憶である」と定義したいと思います。景観には過去から現在までの痕跡の積み重なりにより、時間軸を構成します。すなわち地域の景観は、過去から現在に至る地域住民やその地域に関わった人々の記憶が形成する歴史的資産でもあります。その景観に大きく影響を及ぼしているものとして「景観構造」とその構造を支えているものとして「景観構成要素」を認識することが“景観まちあるき”活動となります。

■景観構造： 景観構造は大きく分けて「自然」と「人工」とに分類されますが、「人工」の中には自然と融合している状態で存在するものもあります。

<自然>

山、海、川、湖、沼、池、林、森、空など

<人工>

○建造物（建物、道路、橋、広場など）：高さ／大きさ／色

○土地加工（自然物である大地が人間の手によって加工されたもの）：田圃／畑／溜め池／水路

○自然との融合： 自然を生かした街並み／里山

■景観構成要素： 景観構成要素は、視覚的に感知できる具体的な景観の要素です。実際には各要素の混合によってそれぞれの独自の景観を構成しておりますが、あらかじめ要素を意識することにより、“景観まちあるき”の手助けとなります。

緑（田・畑・庭木・生垣・林・森・並木…）

水（川・池・用水・湖・海…）

地形（山・丘・谷・平地・斜面・崖・遠近感…）

光（太陽・月・夜景・時間・照明・空気・虹…）

土（道・広場…）

空（青空・雲・朝焼け・夕焼け・スカイライン…）

人（個人・集団・群集…）

乗り物（自転車・自動車・列車・船・飛行機…）

建物（住宅・集合住宅・事務所・商店・工場・学校・病院・神社仏閣…）

工作物（道路・橋・擁壁・鉄塔・広告塔・電柱・電線・ダム・堰堤・堤防…）

■ワークシート作成に当って（“景観まちあるき”から“景観まちづくり”へ）

“景観まちあるき”（タウンウォッチング）を修了しましたら、良い景観、悪い景観、気持ちいい景観、煩わしい景観、ほっとできる景観、そこにじっとしてはいられないような景観、などなど色々経験してきたことを話し合ひましょう。そして、各自の感じたことをもとにして、「自然－人工」×「快－不快」のマトリックスの中に各自で撮った写真を張り付けコメントを入れてください。

<話し合いのヒント>

- ① 「安全」：公共建造物、電信柱・電線類などがどのようになっており、道路等が日常生活の安全が確保されているでしょうか。
- ② 「神聖」：ほっとする静かで神聖な共有空間（図書館、学校、自然公園等）が確保され享受されているでしょうか。住宅地に自動車・電車の通行音が騒音として侵入していないでしょうか。
- ③ 「芸術」：伝統文化の下に建物の高さ・色・装飾は街区ごとに統一されているでしょうか。また、建築物はヒューマンスケールで、自然との調和を第一とし、地元の材料を優先させており、看板と照明はその土地の伝統文化に基づき統一され効果的に活用されているでしょうか。